令和5年度　小平市立花小金井小学校　学校評価報告書

学校の教育目標

人権尊重の精神を基盤に、人間性豊かでたくましく生きる児童（かしこく　つよく　やさしい子）を育成する。

目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像】　未来への夢や希望が抱け、学ぶ楽しさがいっぱいの学校
【目指す児童・生徒像】　主体的に問題解決に取り組み、自分の考えを表現できる児童　健康でたくましい心身をもち、目標に向かって粘り強く努力する児童　自分も友だちも大切にする児童
【目指す教師像】　子どものよさや可能性を語れる教師　授業改善に向け研鑽に努める教師　学校経営に対する参画意識をもつ教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

【成果】東京ベーシックドリルを活用した算数指導の工夫に取り組んだことで、児童の学習意欲を高め、基礎学力を定着させた。
【課題】児童同士や教員と児童との適切なコミュニケーションを図るための手だてを講じる必要がある。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		学校関係者評価	課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標		
学力向上	外部講師を招いた全教員による研究授業の実施	1	4	1学期は計画したが、日程の調整が付かず外部講師を招聘できなかった。2学期以降に外部講師を招聘し、全教員の研究授業を実施する。	4	4	・外部講師の授業をもっと積極的に実施してもらいたい。 ・外部講師を招聘する授業について、CS委員にも公開をしてほしい。 ・ICTの活用は必須である。楽しみながら活用できるように推進してほしい。	各教員の研究授業すべてに外部講師を招くことができた。教員にとって学びの多い取組であったが、外部講師との日程調整が困難だったため、1学期の内から計画的に進める。
	授業におけるICT機器の活用	4	4	ロイロノートを中心に、ICT機器を授業で活用することができてきたため、様々な教科で実践を積んでいくことが必要である。	4	4		プレゼンなどの発表や調べ学習でICT機器は効果を発揮したが、ICTを使うことが目的になってしまう傾向もあった。児童が学習に合わせて、ICT危機を文房具のように活用する環境をつくる。
健全育成（いじめ防止）	毎月のいじめ調査、対策委員会の実施	2	3	児童の情報を共有することが十分にできた。今後も情報共有を継続することと、教員以外の時間講師等にも児童の情報を共有して、学校全体で対応していくことが必要である。	4	3	・学校風土としていじめを許さない習慣がつくよう、継続していく。 ・教職員の情報共有への注力を今後も丁寧に行ってほしい。 ・いじめ対策について、以前よりも、よく取り組んでいる。 ・異学年交流について、年間を通した取組の継続してほしい。	随時、校内委員会や職員夕会で児童の情報を共有することができた。問題を教員一人が抱えることなく、チームで考えることができた。これを継続していく。
	なかよし班、委員会、クラブ活動など異学年交流や体験活動の充実	4	4	体力テストの測定の際に、6年生と1年生で交流することができた。通常の教育活動の中にも積極的に異学年の交流を組み込んでいく。	4	4		異学年交流の回数が多く設定できたため、体験が充実できた。また、6年生がリーダー性を発揮できる場も多くあったため、次年度も豊富な体験とともに、6年生のリーダー性を高める取り組み方を設定する。
健康づくり	全校で取り組む「持久走タイム」「なわとび旬間」等の実施	1	4	1学期は、学校全体での取組ができなかった。しかしながら、休み時間等、児童が外に出て運動に取り組んでいる姿が見られた。学校全体で取り組む健康づくり活動は、2学期以降に実施する。	4	3	・食育について昼食の時間の活用がよい。 ・縄跳び、持久走は良い取組である。校庭の工事が入るので、実施方法に工夫が必要になる。今年の実施方法をもとに、次年度に繋げて欲しい。	2月から校庭の工事が始まった。校庭が半分近くに狭くなるため、次年度の全校で取り組む健康づくり活動については、工夫が必要になる。
	ゲストティーチャーや栄養士を活用した食育指導の実施	4	3	栄養士が中心の食育指導から、給食委員会の児童を中心とした食育指導を実施した。児童が当事者意識をもたせ、児童自身が食に対する考えをもつようにさせることが必要である。	3	3		給食委員会が中心となって食についての取組を実施した。次年度以降も児童を中心とした取組によって、児童の食への意識を高めていく。
保護者・地域との連携	保護者の会、学校経営協議会の健全育成、学校支援プロジェクトの活用	4	3	スクールメールや学習者用端末を活用して、保護者や地域と連携した取組を発信することができた。取組に協力していただける大人を増やし、取組を活性化していく。	4	4	・ゲストティーチャーは良い取組であるため、継続してほしい。 ・地域と連携した取組の発信がたくさん実施することができた。 ・地域の活動や取組が、少しずつ認知されている。 ・今後は、ボランティアを集めるのに工夫が必要である。	花小コミュニティー・スクールが発足し、取組が段々と形になっている。学習ボランティアも延べ人数で400人を越える協力をいただいた。今後も積極的に保護者や地域と一緒に教育活動を進めていく。
	全学年で年間1回以上の実施	2	4	防災教育等の学習において、地域や外部の専門家の方をゲストティーチャーとして招いた。2学期以降も、外部の方から学ぶ体験を数多く設定していきたい。	4	4		全学年で1回以上、地域や外部の方等の地域人材を生かした教育活動を行うことができた。次年度以降も実施できるよう、計画を立てて進めていく。
業務改善・働き方改革	個々の目標設定、分掌マニュアルの作成、人材の活用	1	2	個々の目標は設定したが、実現するための手だてを具体的に考える必要がある。SSSや学習補助員、EAを積極的に活用し、業務を分散するなど、手だてを講じていく。	1	2	・十分に取り組まれているが、どうにかして、教員の負担を減らしていきたい。 ・児童の個人情報等、配慮すべきことがあるが、できる範囲で、学校を支えていきたい。 ・人員の増加が必要である。	業務の分散を実施しているが、職員の実感として業務の軽減や効率化が進んでいない。次年度はICT化が進むため、働き方自体をより簡略化し、職員に余裕が生まれるようにする。
	出退勤管理システムの活用や定時退庁日、学校一斉閉庁日の実施	1	2	月の時間外勤務が45時間以上にあたる職員は23％であった。前年よりも低い数値であったため、今後も引き続き、時間外勤務の減少に努める。	2	4		月の時間外勤務が45時間以上にあたる職員は20％であり、時間外勤務の減少ができている。職員一人一人がワークライフバランスを考えて仕事をデザインできる職場環境をつくる。